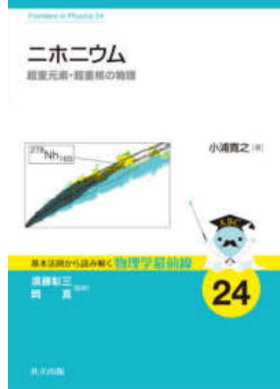


書 架 便 り

2021.12.02 川越高校図書館

☆☆☆ 本を読むなら ☆☆☆ 11月に新しく入った本を紹介します ☆☆☆



元素創造 キット・チャップマン 白揚社 ニホニウム 小浦寛之 共立出版

科学者には自明のことでしょうが、周期表93～118番の元素は、天然には存在しない超ウラン元素というものである。核と核をぶつけ、新しい元素を合成したのが93番以降。どうやって作ったのか、では今後119番以降も続くのか。その過程を追ったのが「**元素創造**」です。

そして113番がニホニウム、詳しく書かれているのが「**ニホニウム**」です。理研（地元ですね、OB もいる）で合成された際の

ドラマと命名の競争、原子核の構造の説明、質量研究の現状など、数式とグラフが多数。分かる人だけついてきて、の内容なので好きな人はどうぞ。



動物の絵 講談社 府中市美術館 編著

府中市美術館で11月28日迄開催だった展覧会「動物の絵」の図録です。が、会場のみでなく書店でも一般販売されています。

「日本とヨーロッパふしぎ・かわいい・へそまがり」という副題で大家(光琳、宗達、ゴッタン、ピカソなど)からプロじゃない画人(徳川家光とか)まで、かわいいもの・かわいくないもの色々。

想像で描いているので(日本の虎とか象とか)変でつつこみどころ満載なんだけど、なんかいい。

描き手に動物、好きでしょと言いたくなる絵ばかり、めくる手も楽しい。



イップス 澤宮優 角川新書

イップスとは突然、特定の動きが出来なくなるアスリートの障害。不調をイップスと噂する状況は単なる呼称で、医学的には局所性の不随意運動らしい。

上達のためには、ある程度の熟練まで反復練習は大事だが、度を越

えると、脳から身体への指令が上手くゆかず、制御不能の状態になるのだ。メンタルではなく脳の誤動作が原因ということで、話が進む。

プロの有名アスリート罹患者がその経験を語り克服の経緯も明らかにしています。

指導者や医師にも取材していて、指導する側・治療する側から見たイップスにも記述は及び、原因解明と治療法を紹介しています。

クラス別貸出冊数 埼玉県立川越高等学校 2021.11.01 ~ 2021.11.30

	組	A組	B組	C組	D組	E組	F組	G組	H組	I組	合計
1 学年	0	6	5	3	4	0	0	4	7	0	29
2 学年	0	1	9	1	0	3	12	15	6	11	58
3 学年	0	0	0	1	0	1	20	0	0	0	22
職員卒業生	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73
合 計	73	7	14	5	4	4	32	19	13	11	182

閲覧室奥、非常口のカーテンが新調されました。まっしろしろ、気が付いていましたか。気分いいよね。



**名画を見上げる 雑誌『マコ・マック 誠文堂新光社』
世界の不思議な街の空から パイインターナショナル**

教会・城・美術館・庁舎などの天井画をクローズアップ。神格化の表現だったり、権力者が支配力を伝えるためや為政者による国家アイデンティティを描く場だったり。綺麗だが意味深。説明で納得出来るかな。西欧の天井が主ですが、日本からも浅草寺本堂の"天人之図""龍之図"が収録されています。

もっと日本を見れば、宗教より意匠のよさが出る気がするな、二条城とか。幕末の乱闘の床板を天井にしたのも。

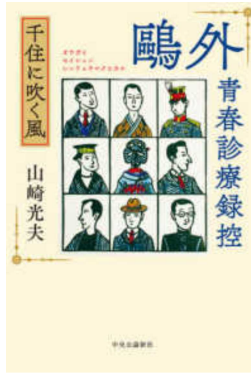
不思議な街は場所も色々。岩山の上や岬の先端、崖地、クレーターの中などなど。人が住んでいます。ドローンカメラで空撮した写真集ですが、どれも密集していて、住み続けてきたエネルギーの凄さが見えます。



意外と最後までどういう内容が書いてあるのか知らない「方丈記」がマンガでざっくりわかる一冊。

出来事、自分の暮らしを語った随筆ですが、時代的に疫病や災害も多く、漫画だからまだいいけど、悲惨さは文で伝わるか。もしも長明が現代にいたら…の4コママンガが面白い。最後に古語の全文掲載あり。

**漫画方丈記
鴨長明 / 信吉 伊勢**



鷗外が、大学卒業後陸軍医となるまでの数ヶ月間を描いた話です。

父親が千住で開いていた橘井堂医院で臨床に携わる若き鷗外の姿は、軍医・文学者というイメージとは違う。

留学の希望が強かったが卒業成績が悪く官費での留学が叶わずにいた、でも真摯に診察に向きあう姿があります。陸軍に入り前途は

**鷗外 青春診療録控
山崎光夫 中央公論新社**

開けたが彼は文学者として生きたかったのでは、とも思わせます。



**モノづくりは未来を拓く
田島隆雄 幻冬舎**

学生プロジェクト奮闘記とある通り、学生たちが、教室で学んだ理論と実験室での体験をもとに、創意工夫して新しい技術に挑んでゆきます。

ソーラーカー、フォーミュラカー自作、宇宙開発のモデルロケット、ロボコン優勝目前のロボットプロジェクト、はちみつ活用を模索するプロジェクト等々。



**私たちはいつまで危険な場所に
住めるのか 木村駿/真鍋政彦 日経BP**

いつまで、と言われても住み家には所有の権利が絡んで難しい。地震だけではなく水害も意識せねば。

今までの教訓を意識した防災の数々です。危険な土地からの撤退、耐水都市への挑戦は急務だけど、強制は無理。制度上どのように誘導していくかが

肝要になってくる。

データで得たものを活かすための防災テクノロジーと知識による備えを説いています。



恐竜学者は止まらない 田中康平 創元社

恐竜好きですか？恐竜研究って骨を見つけて元の姿を考える事だと思っていたら足りないよ。「卵化石」研究はどんな恐竜がどこでどんな風に卵を産んで、どうやって孵化させて世代を繋いでいったかを究めている。

著者は嬉々として発掘で世界を飛び回るし、学会発表も、今の動物の生態観察も。



**AI支配でヒトは死ぬ。
養老孟司 ビジネス社**

AIブームはおかしくないか。副題「システムから外れ、自分の身体で考える」としているのは脳ばかりを肥大化させ、自ら考え動くことを放棄している現状を憂い、身体とのバランスが悪い状態を改善してこそ、との言。